

特定非営利活動法人日本火山学会
2025年度通常総会 議事録

開催日時及び開催場所

2025年5月27日（火） 12時30分～13時30分

千葉県千葉市 幕張メッセ国際会議場コンベンションホールB (Zoomによる中継も実施)

初めに出席数を確認した。定款第26条の規定により総会の開会は維持会員の1/3以上の出席をもって成立するが、通常総会開催時の維持会員は279名であり、定足数は93名となる。会場出席者47名、ウェブサイトのフォームへの記入による表決権行使者62名の計109名について、会長が出席者と認定し、定足数を満たしていることを確認した。これを受け、総会の議長である会長が開会を宣言した。

議題1 2024年度決算案および2024年度決算に対する監査結果

財務委員会から提示された2024年度の決算案（別添資料1）及び監事2名による監査結果（別添資料2）を賛成多数により総会として承認した。

議題2 2025年度予算案

財務委員会から2025年度の予算案（別添資料3）が提案され、賛成多数により総会として承認した。

議題3 議事録署名人の選任

議事録署名人として青山裕副会長・下司信夫副会長を選任した。

報告事項

各委員会から、活動報告等を行った（別添資料4）。

以上、予定した審議事項を全て審議し議決したことを確認し、会長が閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2025年6月10日

議長 中村美千彦

議事録署名人 青山裕 下司信夫

資料 1

2024 年度決算案

特定非営利活動に係る事業会計（単位：円）

2024 年 4 月 1 日から
2025 年 3 月 31 日

勘定科目	予算額	決算額	増減
《経常収入の部》			
会費収入	8,461,000	8,582,000	121,000
寄付金収入	0	0	0
補助金等収入	900,000	538,764	-361,236
事業収入	7,824,000	8,197,351	373,351
その他収入	150,200	123,271	-26,929
経常収入合計	17,335,200	17,451,386	116,186
《経常支出の部》			
【事業費】			
火山学に関する定期大会等の開催費	6,480,000	5,470,355	-1,009,645
会誌機関紙研究報告書等発行費	4,160,000	1,846,163	-2,313,837
公開講座講演会等開催費	1,370,000	946,671	-423,329
火山学の普及啓発に関する事業費	1,266,000	225,888	1,040,112
火山学に関する研究奨励表彰費	100,000	64,482	-35,518
助成金支出	700,000	583,119	-116,881
期首・期末棚卸	0	57,768	57,768
【事業費】合計	14,076,000	9,194,446	-4,881,554
【管理費】合計	8,479,553	7,479,473	-1,000,080
【経常支出】合計	22,555,553	16,673,919	-5,881,634
当期経常増減額	-5,220,353	777,467	5,997,820
固定資産額		21,385,576	
期末棚卸額		1,110,951	
前渡金		0	
前払費用		31,462	
前期繰越収支差額		6,252,015	
次期繰越収支差額		8,342,283	2,090,268

約 78 万円の黒字（経常収入 17,451 千円、経常支出 16,674 千円）

資料2

2024年度決算に対する監査結果

監査報告

特定非営利活動法人日本火山学会定款第6章第49条により、
2024年度の事業・会計収支状況、預金・為替等の帳簿を監査した結果、適正に執行されていることを認めます。

2025年七月7日

特定非営利活動法人日本火山学会 会計監事

篠原 宏志 

寅丸 敏高 

資料3

2025年度予算案

非特定営利活動に係る事業会計（単位：円）

2025年4月1日から
2026年3月31日まで

勘定科目	前年度決算額	予算額	予算額差異
【経常収入】			
会費収入	8,582,000	8,582,000	0
寄付金収入	10,000	1,120,000	1,110,000
補助金等収入	538,764	1,570,000	1,031,236
経常収入			
事業収入	8,197,351	8,514,000	316,649
その他収入	123,271	155,000	31,729
【経常収入】 合計	17,451,386	19,941,000	2,489,614
【経常支出】			
火山学に関する定期大会等の開催費	5,470,355	7,630,000	2,159,645
会誌機関紙研究報告書等発行費	1,846,163	2,910,000	1,063,837
公開講座講演会等開催費	946,671	1,210,00	263,329
火山学の普及啓発に関する事業費	225,888	1,180,000	954,112
火山学に関する研究奨励表彰費	64,482	100,000	35518
助成金支出	583,119	600,000	16,881
期首・期末棚卸	57,768	0	-57,768
事業費 計	9,194,446	13,630,000	4,435,554
管理費	7,479,473	9,049,553	1,570,080
【経常支出】 合計	16,673,919	22,679,553	6,005,634
当期経常増減額	777,467	-2,738,553	-3,516,020
固定資産額	21,385,576	21,366,023	-19,553
期末棚卸額	1,110,951	1,110,951	0
前払費用	31,462	31,462	0
前期繰越収支差額	6,252,015	8,342,283	-2,090,268
次期繰越収支差額	8,342,283	5,623,283	-2,719,000

資料4

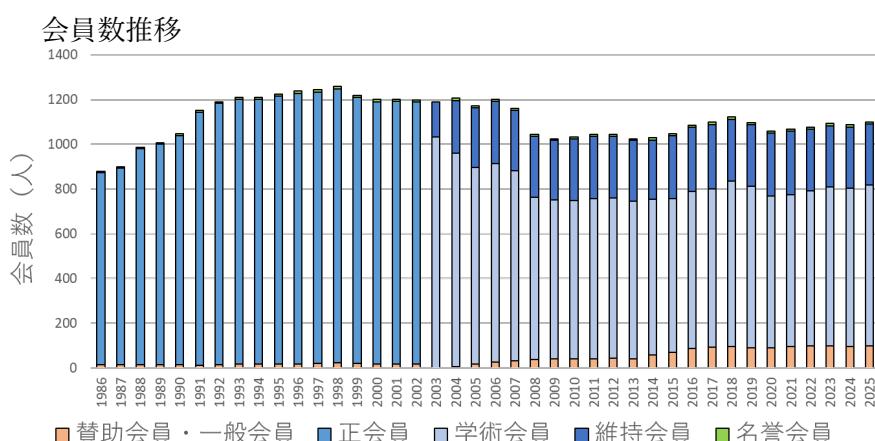
○ 庶務委員会からの報告

・会員動向等 (2025年5月22日時点)

	維持会員	学術会員	一般会員	計
2024年度臨時総会時 (個人)・合計	272	720	98	1,090
2024年度臨時総会時 (団体)・合計	1	0	20	21
名誉会員	11	0	0	11
2024年度臨時総会時・合計	284	720	118	1,122
2024年度臨時総会後・入会 (個人)	2	3	4	9
2024年度臨時総会後・会員種別変更 (個人)	0	0	0	0
2024年度退会 (個人／団体)	-7/0	-21/0	-5/0	-33/0
2024年度・学生会員期間満了退会	-3	-41	-3	-47
2025年度・逝去	-1	0	0	-1
2025年度・入会・承認済 (個人／団体)	2/1	8/0	2/1	12/2
2025年度・会員種別変更 (個人)	-1/3	-3/2	-2/1	0
2025年度通常総会時 (個人)・合計	266	668	95	1,029
2025年度通常総会時 (団体)・合計	2	0	21	23
名誉会員	10	0	0	10
2025年度通常総会時・合計	278	668	118	1,062

2025年度除名対象 12名 (維持会員2名、学術会員7名、一般会員3名)

5月に警告書を発送し、8月末までに会費支払や継続希望の連絡がない場合、除名。



・後援・協賛

【協賛金・負担金を支出するもの】：3件

地震火山地質こどもサマースクール、地学オリンピック、EPS 分担金

【協賛金・負担金が発生しないもの】：9件（2024年度開催分）

- ・後援 第67回粘土科学討論会：一般社団法人 日本粘土学会
 - ・後援 企画展「吾妻山と御嶽山」に関連したシンポジウム「福島県火山防災シンポジウム」：磐梯山噴火記念館
 - ・後援 令和6年度 北海道防災気象講演会「火山活動と防災対策を知る」：札幌管区気象台
 - ・後援 山梨県富士山科学研究所 国際シンポジウム 2024－中南米の噴火対応から学ぶ火山防災－：山梨県富士山科学研究所
 - ・後援 京都大学防災研究所共同利用一般研究集会「火山活動評価研究の現状と今後の展望」：京都大学防災研究所
 - ・後援 第36回研究成果発表会：海洋調査技術学会
 - ・後援 令和6年度成果報告シンポジウム：地震・火山噴火予知研究協議会
 - ・後援 令和6年度火山工学研究セミナー「海外の火山噴火に学ぶ最近の火山工学研究の進歩」：土木学会 地盤工学委員会 火山工学研究小委員会
 - ・後援 第68回粘土科学討論会：一般社団法人 日本粘土学会
- ・会員情報システム SMOOSY の導入について
- 株式会社アトラス社の SMOOSY を導入し、今後以下の用途で活用予定。
- 会員情報管理のオンライン化
 - … 会員自身による情報更新、大会参加費や年会費等のオンライン決済(8月～)
 - 学会メーリングリストの安定化・利便化
 - 学会誌「火山」PDF版 や 会員名簿などの会員限定公開での活用
 - 理事選挙のオンライン化 など
- ・規程の制定・改定について
- 「会計処理規程」を新たに制定
 - 「寄付の受け入れに関する規程」を新たに制定
 - 「常設委員会設置規程（財務委員会）」の変更 …会計処理規程に対応した変更
 - 「表彰規程」の変更
- 【現行】 ○日本火山学会優秀学術賞：直近数年間において火山学に関する優れた学術貢献のあった本会会員に授与する。
- 【変更後】 ○日本火山学会優秀学術賞：火山学に関する優れた学術貢献のあった本会会員に授与する。

○ 大会委員会からの報告

- ・2025 年度秋季大会について

学術講演会：

会場：キッセイ文化ホール（松本市）

口頭発表（ハイブリッド形式）：10月1日（水）から3日（金）

ポスター発表（現地発表のみ）：10月1日（水）、2日（木）にコアタイム

予稿締切は8月21日（木）午後4時の予定（郵送の場合、8月14日締切）

参加費、託児サービス等については、学会HP・学会MLで後日アナウンス予定

一般講演会：10月4日（土）、会場：キッセイ文ホール

公開講座：10月4日（土）、会場：信州大学松本キャンパス

現地討論会：御嶽（9月29日、30日）および焼岳（9月30日）の予定

- ・2026 年度秋季大会について

学術講演会：2026年9月24日（木）～26日（土）の予定

場所：山形大学（山形県山形市）

LOC：山形大学（代表）

○ 編集委員会からの報告

- ・会誌「火山」発刊・編集状況について

「火山」発刊状況

【70巻2号】2025年6月末発行 合計6編（巻頭言、論説1編、解説・紹介4編）

査読編集状況

現在査読編集中の通常論文原稿 計6編（論説5編、寄書1編）

- ・特集「次世代研究者のための火山学講座」の合本について

66巻3号～69巻4号に掲載された19編の特集記事をまとめ、すぐに読みやすいように冊子体に。

JpGU期間中100冊を学会ブースで販売中。

○ 事業委員会からの報告

- ・「みんなの火山セミナー」について

ジオパークのガイド～専門員レベルの方々が、火山に関する基礎的な事項を学べる機会を提供するために、オンラインセミナーを開催。第1回を6月8日（日）に予定。講師は中村美千彦会長。ファシリテータは大野希一・荒木藍の両会員。Peatixによる参加登録、Zoomによる配信を予定（参加費無料、投げ銭も設定）。

- ・秋季大会時のジオツアについて

浅間北麓ジオパークが火山学会会員を対象として 10 月 4 日（土）にジオツアーセミナーを実施予定。

○ 國際委員会からの報告

- ・ JpGU Meeting 國際化対応ワーキンググループの設置と活動について
 - JpGU-AGU Joint Meeting 2026 における英語セッションの比率向上（目標 7 割）と充実等、國際化に向けたワーキンググループを 2024 年度第 7 回理事会（12月23日開催）で設置。
委員長：中道治久 委員：石塚 治，市原美恵，奥村聰，下司信夫，中村美千彦，長谷川健，姫松裕志，松本恵子，Chris Conway
 - これまでに 2 回の会合を開催し、JpGU 公式のセッション提案に先立つ準備を行った：WG のマイルストーンの作成、協力の呼びかけ・事前調査・想定セッション・共催セッションの調整方法等の検討など。
 - 今後、2024, 2025 年の JpGU セッションコンビーナおよび全会員宛にアンケートを実施予定。火山学会の共催（学協会セッション）については必要に応じ調整・新規提案依頼等を行う。

・ IAVCEI News Letter への記事掲載について

火山学会と IAVCEI は、情報発信と交流促進を目的とした MoU を 2024 年 4 月 10 日付で締結。情報発信の一環として、IAVCEI News に噴煙観測についての記事を日本から投稿し、News No1 March 2025 に掲載。

・ SATREPS 説明会の開催について

JpGU 大会期間中に、JST との共催で防災分野 SATREPS 説明会を開催。SATREPS の制度の説明（科学技術振興機構 相馬 司）、研究主幹からみた SATREPS プロジェクト提案のすすめ（井口正人）、実施代表による SATREPS プロジェクト活動の報告（市原美恵）などを予定。

5月28日（水）12：30～13：30 に国際会議場 106（現地開催のみ）

○ 将来計画委員会からの報告

・ 70 周年記念事業ワーキンググループの活動について

これまでに 9 回の会合を開催し、学会誌「火山」特集号の方針案等を決定した。

（1）学会誌「火山」特集号：著者への打診等

（2）日本の火山学の動向調査など：

SG1：「日本の火山学術 この 10 年」として、会員の統計や論文、学会発表、外部資金等について定量的に調査。2026 年度秋季大会における調査結果の報告、報告書の取りまとめを目指す

SG2: 「火山学会と社会の関わり」 2025 年度秋季大会に関係委員会をまたいだ連携座談会を検討中

○ 財務基盤改善委員会からの報告

これまでに 1 回の会合を開催。以下について検討し、方針案などを決定。

(1) 事務局（本郷マンション）の管理・修繕積立状況の確認：

管理組合により適切に管理・積立されているが、修繕費用の高騰を考慮し注視する

(2) 会計処理規程・寄付の受け入れに関する規程の整備状況の確認

(3) 財務基盤改善に向けた項目の整理と対応案の検討

- ジオパーク関係者対象のオンラインセミナーの実施
- 学会ホームページへのバナー広告掲載（規程整備を受けて）
- 秋季大会の団体展示の促進（学生向けの宣伝などメリットを強調した募集）
- 鉱物科学会 2025 年秋季大会「火成作用のダイナミクス」セッションの共催：
 - ・火山学会員は共催セッションで発表可、他セッションは聴講のみ可
 - ・火山学会秋季大会のセッション単位での共催も、2026 年山形大会で検討中
- 秋季大会における学術活動の強化（セッションの公募・招待講演の導入など）
- 火山学ウェビナー：次世代人材育成コンソと連携・協力

○ 事業委員会からの報告

・普及啓発事業について

新しい学会オリジナルグッズとして A4 サイズのフラットトートーバッグを新規に作成。JpGU 大会期間中は学会ブースで販売（1 枚 700 円）。

・オンラインセミナーの開催

火山研究人材育成コンソで実施している論文紹介ランチタイムセミナーの登録制を廃止し、火山学会員であれば誰でも参加できる形式に変更。

年 3~4 回程度の専門家のセミナーについても検討中。

○ 学校教育委員会からの報告

・地震火山地質こどもサマースクールについて

- 2024 年度は、三好ジオパーク構想地域と周辺にて 8 月 7 日、8 日に実施。地質学会が主担当となり、参加者は小学生から高校生までの計 28 名。ノエビアグリーン財団からの助成金を活用。
- 2025 年度は、御嶽山をテーマとして長野県木曽町周辺で 8 月 5 日、6 日に開催予定。主担当は火山学会であり、講師の多くは火山学会員。

三好ジオパーク構想地域と周辺にて 8 月 7 日（水）～8 日（木）に実施。地質学会が主担当となり、参加者は小学生から高校生までの計 28 名。ノエビアグリーン財団からの助成金を活用。

・火山実験交流会について

3 月 2 日、3 日に、板橋区立教育科学館において「全国火山実験研究交流会」を開催。
(主催：板橋区立教育科学館・日本火山学会)

出展者 63 名、来客数 448 名以上。実行委員会形式とし、5 団体から寄付を得つつ実施。

○ 火山防災委員会からの報告

・御嶽山 2014 年噴火 10 年シンポジウムについて

2024 年 11 月 30 日（土）に開催。

会場：木曽文化公園文化ホール（長野県木曽町）&オンライン配信

主催団体：日本火山学会・御嶽山火山防災協議会

会場で約 100 名、オンラインで約 200 名の計約 300 名が参加

・JpGU2024 関連セッション「火山防災の基礎と応用」について

5 月 25 日に開催。

・火山防災シンポジウムについて

5 月 24 日に火山学会主催で開催。

共催：山梨大学、日本火山学会 70 周年 WG

テーマ「火山防災委員会の十年と防災・人材育成活動の今後」

・その他の活動：内閣府主催の会議への参加、地域安全学会と火山防災委員会の共催による火山防災勉強会等の開催。

○ そのほか理事会での議論・報告事項の紹介

・EPS 誌の運営、Springer 社との契約などに関する報告（他学会関連担当委員会）

・JpGU 学協会幹事会報告など（会長）

参加学会の学会運営状況等についての情報交換、夢ロードマップの改訂についてほか

○ 2024 年度日本火山学会各賞の授賞選考結果について

各賞選考委員会から提案された日本火山学会各賞の授賞候補者について、2024 年度第 1 回理事会において以下の通り承認。

■日本火山学会賞：

● 大場 武（東海大学理学部）

「火山における地球化学的観測研究－熱水系の理解、火山活動評価、国際貢献および人材育成－」

- 小林哲夫（京都大学防災研究所）
「火山地質学研究および人材育成への貢献」

■日本火山学普及啓発賞

- 山梨県富士山科学研究所
「富士山をはじめとした火山防災に関する国内外への教育普及啓発活動」

■日本火山学会研究奨励賞

- 三反畠 修（東京大学地震研究所）
「津波記録に基づく海底カルデラにおける変動現象解明」
- 志水宏行（（一財）砂防・地すべり技術センター）
「二層重力流モデル構築による火碎流のダイナミクスと堆積物に関する理論的研究」
- 新谷直己（東北大学大学院理学研究科／産総研）
「火山噴出物の化学分析に基づく噴火開始メカニズムの解明」

■日本火山学会学生優秀論文賞

- 柴田翔平（茨城大学）
Shibata, S, Hasegawa, T (2024) Evolution of a large scale phreatoplinian eruption: Constraints from the 40 ka caldera forming eruption of Kutcharo volcano, eastern Hokkaido, Japan. *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 452, 108125.
- 宮木裕崇（名古屋大学）
Miyagi, Y, Tsunogai, U, Watanabe, K, Ito M, Nakagawa, F, Kazahaya, R (2024) Estimating emission flux of H₂S from fumarolic fields using vertical sensor array system, *Journal of Volcanology and Geothermal Research*, 450, 108090.
- 櫻井亮輔（東京大学／JAXA宇宙科学研究所）
Sakurai, R, Nakamura, M, Okumura, S, Mujin, M, Nakatani, T (2024) Vapor-phase crystallization from a hydrous silicate melt: an experimental simulation of diktytaxitic texture. *Contributions to Mineralogy and Petrology*, 179, 23.

■日本火山学会論文賞

- 市原美恵・小林 宰・前野 深・大湊隆雄・渡辺篤史・中田節也・金子隆之
Ichihara, M, Kobayashi, T, Maeno, F, Ohminato, T, Watanabe, A, Nakada, S, and

Kaneko, T (2023) The sequence of the 2017-2018 eruptions and seismo-acoustic activity at Kirishima volcano group. *Earth Planets Space*, 75, 144.

● 高橋 良・鈴木隆広・大森一人

高橋 良・鈴木隆広・大森一人 (2022) 地球化学的・鉱物学的調査から推定した俱多楽火山登別地熱地域の熱水系. *火山*, 67, 453-469.